

われわれは「平和の擁護」にいかに取り組むか ～ ソーシャルワーカーとして・専門職団体としてのあり方を考える ～

2020年に我々が採択した「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の前文において、「われわれは平和を擁護し、社会正義、人権、集団的責任、多様性尊重および全人的存在の原理に則り（中略）、多様な人々や組織と協働することを言明する」として、我々の取り組むべきことがらの筆頭に「平和を擁護」することを掲げている。

太平洋戦争から約80年、幸いにも我々は戦争のない時代を過ごすことができた。しかし世界に目を向けると、いまだ各地の戦禍の火は衰えを見せず、我々の身近にも危機が迫りつつあることは誰もが認識するところである。福祉国家を目指す我々は、その対極にある戦争国家に陥ることは何としても食い止めなければならない。多くの惨状を前に、少なくとも日ごろの実践の対象者や地域の声なき声のためにも、一人のソーシャルワーカーとして又は専門職団体として、「平和の擁護」について真正面から取り組み、何らかのアクションをなすべき時ではないだろうか。

今回のシンポジウムは、ソーシャルワーク固有の視点から「平和の擁護」について考え、同時に広く、保健・医療・福祉の従事者との連携したソーシャルアクションのあり方について議論し、具体化することを目的として開催する。

【日時】 2025年5月31日（土） 【開催】 オンライン方式 zoom
10:00-12:30 【定員】 100名
【参加費】 お一人 3,000円

主催：特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会

JFSW 会員：2,000円

共催：公益社団法人日本社会福祉士会

学生：1,000円

公益社団法人日本精神保健福祉士協会

公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会

後援（予定）

全国社会福祉協議会、福祉新聞社、東京都社会福祉協議会、福祉医療機構、日本ソーシャルワーク教育学校連盟、全国社会福祉施設経営者協議会、社会福祉振興・試験センター、日本介護福祉士会、全国老人福祉施設協議会、日本ソーシャルワーク学会

内容：報告者1：保良昌徳氏（日本ソーシャルワーカー協会）

『平和擁護のためにソーシャルワーカーは何をなすべきか？ 一提案一』

報告者2：山地恭子氏（日本医療ソーシャルワーカー協会）

『ヒロシマのソーシャルワークに学ぶ』

報告者3：大橋雅啓氏（日本精神保健福祉士協会）

『ソーシャルワーク組織のBCP(事業継続計画)の課題、東日本大震災を経験して』

報告者4：中島康晴氏（日本社会福祉士会）

『イデオロギーに依拠しない実践方法の検討 - 「ぬちどう宝」の思想を手掛かりに - 』

コーディネーター：ヴィラーク ヴィクトル（日本ソーシャルワーカー協会）

対 象：JFSW 会員、社会福祉事業経営者・施設長、社会福祉の現場に携わる管理職及び従事者、福祉教育
現場の教職員・研究者・学生、その他社会福祉業務及びその専門性に関心のある方

申 込：※右のQRコードから Peatix に移動し、申し込みと支払いができます。

参加申込/お支払い

<https://peatix.com/event/4389687/view?k=32fb685172ab18ce6cf19ab1449392df1a656163>

※申し込み締め切り：2025年5月26日（月）17:00

※納入された参加費の返金には対応しかねますので、ご了承ください。

その他：※受付された方には、5月28日（水）に当日資料と ZOOM の URL を配信
予定です。



【登壇者紹介】



日本ソーシャルワーカー協会 保良昌徳（やすら しょうとく）

沖縄県生まれ。琉球大学を卒業後、特別養護老人ホーム（生活指導員・養護課長）に10年従事。その後、東北福祉大学社会福祉研究科修了（修士）、同大学助手を経て、1990年から沖縄国際大学文学部社会学科就職。社会福祉原論・高齢者福祉論等を担当。学部改組・人間福祉学科・大学院設置に取り組み、学部長・研究科長・法人理事等を務め2019年退職。現在、特養ホームおきなわ長寿苑施設長、特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会会長、その他、県・市町村・各種社会福祉団体等の委員・理事等務める。



日本医療ソーシャルワーカー協会 山地 恭子（やまじ きょうこ）

広島文教大学人間科学部人間福祉学科准教授（2023年4月以降）。熊本県生まれ、1994年県立広島大学を卒業、1999年10月から広島医療生活協同組合広島共立病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務。MSWとして、在外被爆者の受け入れ（渡日治療）支援、医師とともに被爆者外来などに取り組んできた。現在も黒い雨被爆者の支援活動に携わる。社会福祉士・介護支援専門員。反貧困ネットワーク広島理事・原爆被害者相談員の会運営委員。主な著書に2019年『ヒロシマのソーシャルワーカー不条理の是正という本音に迫る』かもがわ出版（共著）など。



日本精神保健福祉士協会 大橋 雅啓（おおはし まさのぶ）

日本精神保健福祉士協会理事、日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）国際委員会委員長、福島県精神保健福祉士会理事。長年、仙台市役所で精神保健福祉行政に従事し、2018年に東日本国際大学健康福祉学部へ。2025年4月からは福島学院大学福祉学部の教授（社会福祉学修士・南カリフォルニア大学ソーシャルワーク大学院）として、後進の指導だけではなく、メンタルヘルスと国際ソーシャルワークの研究と実践に取り組んでいる。主な著書に『東日本大震災と原発事故からの10年・災害の初動から真の復興、そしてウイズコロナの未来へ向けて』（共著）論創社2021年、「被災者支援とこころの復興についてー東日本大震災後の精神保健福祉士の体験記」（単著）『精神医療』批評社2013年など。



日本社会福祉士会 中島 康晴（なかしま やすはる）

（特非）地域の絆、（福）地域の空、（株）地域の家、（株）地域の風、（医）REGIONOを含むREGIONOグループの代表者。認定社会福祉士、博士（教育学）・東北大学大学院教育学研究科。（公社）日本社会福祉士会参事、（公社）広島県社会福祉士会相談役。主な著書に、2014年『よくわかる地域包括ケアの理論と実践 - 社会資源活用術』日本医療企画（単著）、2017年『地域包括ケアから社会変革への道程【理論編】【実践編】』批評社（単著）、2019年『「出逢い直し」の地域共生社会【上巻】【下巻】』批評社（単著）、2019年『ソーシャルワーカー「身近」を革命する人たち』ちくま新書（共著）など。



コーディネーター Virág Viktor（ヴィラーグ ヴィクトル）

日本ソーシャルワーカー協会理事、日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）国際委員。日本社会事業大学社会福祉学部准教授・福祉計画学科長、博士（社会福祉学）。国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋地域（IFSW-AP）財務担当、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）理事、日本ソーシャルワーカー学会理事などを経験。主な著書に、『多様性時代のソーシャルワーク』（単著、2018、中央法規）、『介護・福祉の現場でともに学び、働くための外国人スタッフの理解』（単著、2021、中央法規）、『Remaking Social Work for the New Global Era』（分担、2022、Springer）など。